



高みをめざす—小学生が日本語検定にチャレンジ—

関西大学初等部

今宮 信吾

本校の教育目標は、「考動—学びを深め、志高く—」です。考動は、本学全体の指針でもあります。12年間一貫教育を標榜し、高い人間力のある子を育てようとしています。本校では、5、6年生に対して、ことばの学びの検証と課題把握を目的として日本語検定に挑戦させています。すべての基礎になる、ことばの力を学校で育み、上級学校、ひいては社会へと役立たせるためでもあります。

日本語検定は、教員にとっては、自らの指導に対する確かな手応えをえるためのものであると同時に、これからのことばの指導の指針を持つためにもなっています。

子どもたちにとっては、自分たちがどのレベルにいるのかを知り、自信を持つことができます。「意外と自分はできるんじゃないか」「もっとことばのことを知りたいな」「次は、もっと難しいことにチャレンジしたいな」などとどんどんと意欲を高めていきます。まさにことばの獲得に対する高みをめざしていきます。

検定の受検に当たっては、5年生の初めは、全員6級からスタートさせます。その秋には、春の結果をもとにして、それぞれの課題で受検します。6年生は、「自分の実力を試したい」という高みの気持ちを大切に、自主的にエントリーさせます。指導体制は、各学年の国語担当の教師が全体の指導を行い、6年生で級別に分かれた場合には、他の学年の国語科の教員もサポートします。今後は中等部との連携のもと初等部での実践が伸びるようにしていきたいと思っています。

